

歴史



龍澤寺

御本尊は知恵の仏 文殊菩薩

母が子を想う
いつの時代も変わらない親の愛に満ちたお寺

福聚山 龍澤寺（ふくじゅさん りゅうたくじ）

目と鼻の先には
旧塩沢の一大スキーリゾート地として開発された
上越国際スキー場、上越国際プレイランドがあり、
お寺の脇をリゾートホテルに通じる山道が切り開かれている。

その一角、戦国時代の重要な山城が今もなお残っている。
すなわち「歴史ゾーン」がある。
山城の名は、樺沢城（かばのさわじょう）
上杉謙信公急死の際には、二人の養子の跡目争いの戦で
壮絶な戦いが繰り広げられた古戦場だ。

スキー場開発の以前には上越線の路線が引かれ、
山城の全ては昔のままではないが、
それでも昔の歴史が色濃く忠実に残る歴史の里とも言うべき場所。

龍澤寺は、この山城のすぐ脇に寄り添うがごとく、ひっそりと佇む古寺である。

寺の歴史は、今から約600年前、室町時代に開山された禅寺。

臨済宗の大本山、門覚寺派に属している。

少し変わっているのは御本尊。

龍澤寺の御本尊は、「三人寄れば文殊の智慧」で知られる文殊菩薩。
卯年生まれの守りご本尊だ。

なるほど…

城主、上杉景勝公は1555年の卯年生まれ。

景勝公の母は上杉謙信公の実の姉、あや姫(後の仙洞院)。
仙洞院は、わが子の発展と成長を祈り、
このお寺に最愛の息子、景勝公の守り本尊である
「文殊菩薩」を泰安された。

寺宝の菩薩は、「あやの文殊」と称して、今もなお信仰されている。

すべての人々に智慧を授け、
いつでもどこでも何からでも学ぶことができ、
心穏やかによりよい人生を送る事ができるように導いてくれる菩薩。

人々の安寧はもとより、入試試験、就職試験などの合格祈願でも人々が訪れる。

禅宗の修行の核である「坐禅」。
お寺で坐禅体験もでき、多くの人達が「禅」を学ぶ。

坐禅は、「調身、調息、調心」と言われ、
姿勢を整えると呼吸が整い、
呼吸が整うと心が整う。

日々の生活の中でストレスが心を痛め、
様々な不安で心が弱っている時などは、
日常生活から少し離れ、一度、ただ坐ってみてはいかが？

夏には、地元の子供たちの寺子屋合宿で
坐禅をし、夜には花火を楽しんだり、流しそうめんをしたり、
もちろん朝のお勤め(お経と宿題、これは大事)をして
にぎやかなお寺になる。

最後にご住職は
「どなたでも気軽に来れるお寺にしたい」
と笑顔でお話し下さった。

心和む寺、龍澤寺。
ぜひお訪ねください。